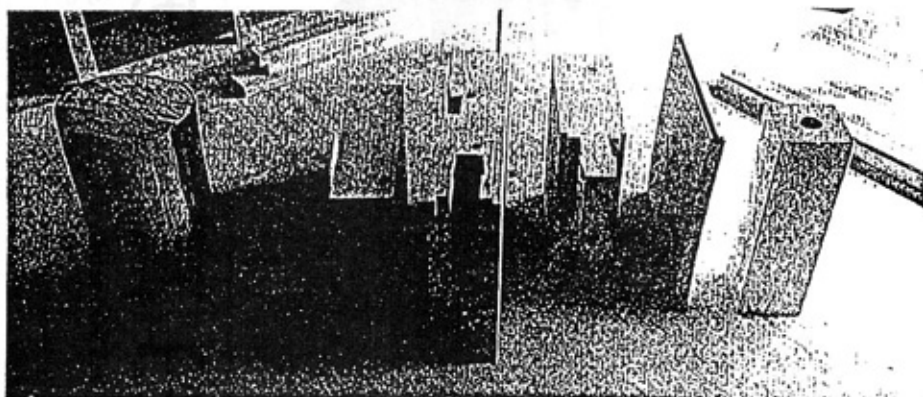
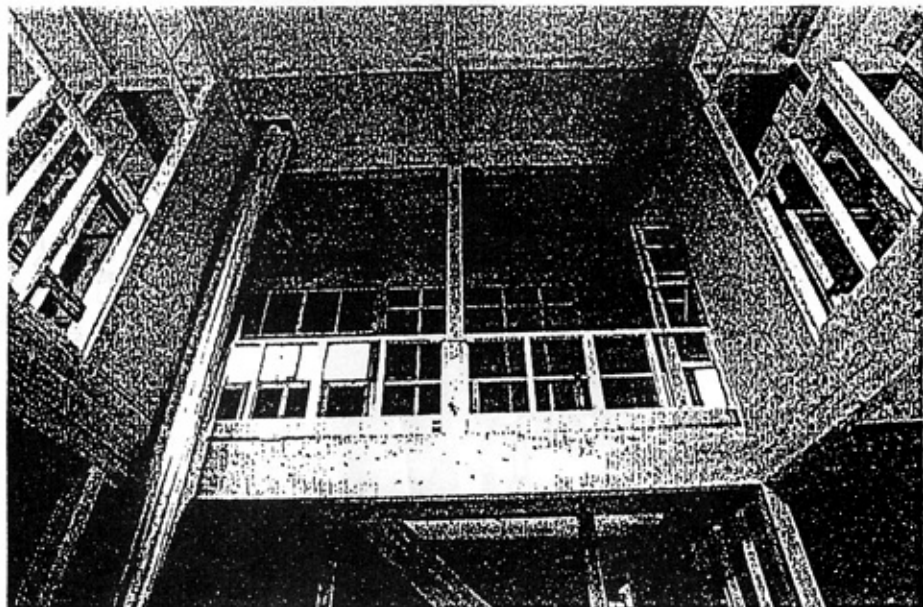


## 国産材活用の鍵は「中空乾燥」にあり



上：福岡県古賀市に建設中の塚本邸。この住宅で約400本の国産材が使われている（設計施工／藤原住宅）  
下：最大のメリットは樹齢30年弱の木材が使える点。28年もの檜材（左端）を13.5cm角×4mの中空材として柱にし、それを3本貼り合わせて梁とする。床・天井の板材はなんと3cm厚、天井仕上げの要なし。床の仕上げももったいないくらい

これみんな国産材。柱も梁も床も天井も壁パネルも100%揃。熊本は球磨檜で、しかも坪単価は設備も含めて60万円を切るという庶民派だ。

「P-Woodハウスシステム」。またの名を「中空乾燥木材による建築」。言われてみればコロンブスの卵である。わが国の国土の70%近くは森林で、まだ樹齢30年くらいのがごろごろ。それなのに木材自給率は25%を下回る。ウッディな家でしょうと見せられても、米松、米ツガ、しかもバリバリに割れが入って

じめこの上ない。いったい国産材はどうなっているんだと言いたくもなる。

開発者の大川秀利さん（日栄住宅工業 企画・開発部長）は考えた。わが国に木はたくさんあるのに、それを乾燥させる技術がないのだ、と。名高い「葉枯らし」だって、半年乾かして表面は含水率25%になっても芯は45%。手間も時間もお金もかかる。

そこで、芯に直径35mmの穴をあけ、特殊な窯で一度に400本を乾燥させること12日間、木材の水分は12%以下になる。



左は開発者の大川秀利さん。「50年は太鼓判の押せる住宅です」という特約店代表の藤原住宅社長・藤原勝さん(右)

使っていくうちに15%前後で安定するというから、これなら割れも狂いもない。

製材会社である日栄住宅工業は鹿児島県大口市にある。熊本県との県境に近く、まわりに木材が豊富だ。きっかけはある住宅メーカーに「割れない床柱」の開発を依頼されたことだった。大川さんは木材加工の専門家。おもしろいことに、性根の悪い木材は窯出しの際に割れたりねじれたりして、ハネることができそう。まるで焼きもの。九州の技術の底力を見せつける。

もっとおもしろいのは、この穴に直径12mmの亜鉛メッキ鉄ボルトを入れて基礎から2階の梁までつないでしまった点。ちなみにPとはパワーの意味。「これなら化粧なしの裸の建築がつけられそう。プランの自由度もあるし、200ある新木造構法の中では、文字どおり芯から考えた点で画期的」（山里茂樹さん）と設計事務所サイドも興奮してしまう構法のようなだ。

国産材維新は鹿児島からなるか？  
今後杉バージョンも開発し、徐々に北上する計画だとか。（西川直子）

- 日栄住宅工業 鹿児島県大口市小本原1197  
TEL 09952-4-2211 予895-2631
- P-WOOD九州事務局 福岡市西区愛宕2-12-10  
TEL 092-882-1239 予819-0015